

## ～ 研究に関するお知らせ ～

横浜医療センター薬剤部では、下記の研究を行います。

研究の名称：入退院調整センターにおける薬剤師の術前休薬確認とその医療経済学的評価

この研究は、条件を満たす患者さん全員を対象といたします。情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、最終ページに記載のお問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### ■ 研究の対象となる患者さん

2022 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までに入退院調整センターでおくすり確認を行う患者さん

### ■ 利用する試料・情報の種類

上記の対象期間中に、診療録に記録された診療情報を研究に使用させていただきます。使用に際しては「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、個人情報 は厳重に保護した状態で行います。

### ■ 研究の概要

- 研究の目的及び意義  
薬剤師によるおくすり確認が、医療経済学的にどのくらい効果があるか調べるため。また、手術中止・延期の原因を調査して、患者さんに安心安全な治療を提供するため。
- 研究の期間  
倫理審査委員会承認日～2025 年 3 月 31 日
- 研究の方法  
当院の入退院調整センターで行った、おくすり確認のデータを集めます。そのなかで①薬剤師が医師に術前休薬の確認を行った患者さんについて、その人数・全体の何割かを調べ、また、無事に手術が行われたかを確認します。最後に、上記の①の患者さんの手術金額を割り出します。もし、手術中止・延期しているケースがあれば、カルテから原因を調査します。その他にも、どのような薬が見落とされやすいかを調査して、患者さんへ安全な医療を提供するために役立てます。
- 外部への情報等の提供、個人情報等の取り扱い

この研究で得られた情報は、あなたを特定できる情報（氏名、住所、電話番号等）は記載せず、本研究固有の症例番号（症例毎に採番）にて管理します。症例番号とカルテ患者 ID 等の対応表データを別途作成します。作成する対応表データはパスワード保護の上、研究責任者が厳重に管理します。

この研究の成績をまとめて学会発表や学術論文として公表されることもありますが、いずれの場合もあなたの名前等の個人的な情報は一切公表されません。また、この研究で得られたデータが、この研究の目的以外に使用されることはありません。

- 研究の資金源

本研究は、資金を要しない研究です。

- 利益相反に関する状況

本研究における、開示すべき利益相反は特にありません。

※ 臨床研究における利益相反とは

「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。

## ■ 研究の実施体制

研究代表者：関口華乃 国立病院機構横浜医療センター 薬剤部 薬剤師

研究協力者：青山大樹 同上

高久弥生 国立病院機構横浜医療センター 医療情報部医療情報管理室  
診療情報管理士

研究補佐：新藤学 国立病院機構横浜医療センター 薬剤部 薬剤部長

小井土啓一 国立病院機構横浜医療センター 薬剤部 副薬剤部長

水島淳裕 国立病院機構横浜医療センター 薬剤部 薬務主任

## ■ ご質問等について

本研究に関するご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出下さい。

<お問い合わせ先>

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

薬剤部 薬剤師 関口華乃

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

電話 045(851)2621（代表）※平日 9：00～17：00